

# IKUKYU.PJT

日本全国の育休実態を徹底調査！  
47都道府県の20代～50代のパパ・ママ9400人に聞く



# イクメン白書 2020

イクメンカが高いイクメン県TOP3は  
「佐賀県」、「熊本県」、「福岡県」!

育休取得日数が長いと家事・育児幸福度も向上



SEKISUI HOUSE

## 日本でも男性の育児休業取得が 当たり前になる社会へ

積水ハウスグループは  
「男性社員1カ月以上の育児休業完全取得」を  
推進しています。

## 「わが家」を世界一 幸せな場所にする

住まいを通じた幸せを提案する  
住宅メーカーとして  
人間性豊かな住まいと環境づくりを  
進めていきます。

積水ハウス株式会社は、子育てを応援する社会を先導する「キッズ・ファースト企業」として、ダイバーシティ推進の取り組みを一層加速させるため、2018年9月より「男性社員1カ月以上の育児休業（イクメン休業）完全取得」を推進しています。

積水ハウスは、男性の育児休業取得をよりよい社会づくりのきっかけとしたい、との思いから、9月19日を「育休を考える日」と記念日として制定、2019年から企業で働く男性の育休取得実態を探る「イクメン白書」を発表しています。昨年につき、全国の小学生以下の子どもを持つ20代～50代の男女9,400人を対象とした調査を実施しました。当社の「イクメン休業」取得者へのアンケート結果とともにご紹介します。

## CONTENTS

P.02	CONCEPT
P.04	1. 発表！イクメン力全国ランキング 2020
P.07	2. 指標別 5項目 イクメン力の都道府県ランキング
P.12	3. 育休取得の実態
P.15	COLUMN ジャーナリスト 治部れんげ
P.16	4. イクメン意識の実態
P.18	5. 育休を取得した夫・妻の声
P.21	6. 育休を取得しなかった夫・妻の声
P.23	7. イクメンの家事・育児と幸福度
P.25	COLUMN 慶應義塾大学教授 前野隆司
P.26	8. 積水ハウスの「イクメン休業」を取得した男性社員とその妻に聞く 積水ハウスの「イクメン休業白書 2020」

### 調査概要

- 実施時期 2020年7月14日（火）～7月22日（水）
- 調査手法 インターネット調査
- 調査対象 全国47都道府県の小学生以下の子どもがいる20代～50代の男女9,400人  
人口動態に基づきウエイトバック集計

\*構成比（%）は小数点第2位以下を四捨五入しているため、合計しても必ずしも100%にならない場合があります。

# 1. 発表！イクメンカ全国ランキング2020

## 積水ハウスが独自設定した 男性の「イクメンカ」を決める4つの指標

積水ハウスでは、右記の4項目を男性のイクメンカの指標として設定しました。1つめは配偶者(妻)からの評価で、夫が行っている家事・育児の数と、夫はイクメンだと思うか(4段階評価)の2項目です。2つめは育休の取得経験で、取得日数が基準となります。3つめは、夫の家事・育児を行う時間で、夫の自己申告ではなく妻から見た夫の家事・育児時間を基準とします。4つめは夫本人に家事・育児に幸せを感じているかどうかを4段階で聞き、本人の幸福度を基準とします。

これら5項目4指標をそれぞれ数値化して、47都道府県別にランキングし、1位に47点を付与、47位には1点を付与し、各項目の点数を足し上げることで、各都道府県のイクメンカを算出しました。

### 「イクメンカ」の基準となる 4つの指標

1 妻の評価 (2項目)	2 育休 取得経験
3 家事・育児 時間 (妻の評価)	4 家事・育児 参加による 幸福感

## イクメンカ調査1位「佐賀県」2位「熊本県」3位「福岡県」 九州勢がイクメン県に急上昇！

1	佐賀県	第1位	205点
	夫が行っている家事・育児の数	5位	6.89個
	夫はイクメンだと思うか	1位	0.33
	育休取得平均日数	10位	5.64日
	家事・育児時間(週平均)	8位	15.63時間/週
	家事・育児への幸福度	11位	0.98

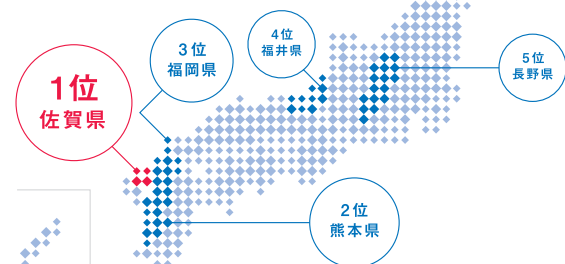
  

2	熊本県	第2位	192点
	夫が行っている家事・育児の数	9位	6.76個
	夫はイクメンだと思うか	2位	0.33
	育休取得平均日数	8位	5.81日
	家事・育児時間(週平均)	19位	13.62時間/週
	家事・育児への幸福度	10位	0.98

3	福岡県	第3位	191点
	夫が行っている家事・育児の数	3位	6.91個
	夫はイクメンだと思うか	12位	0.13
	育休取得平均日数	24位	2.95日
	家事・育児時間(週平均)	2位	16.54時間/週
	家事・育児への幸福度	8位	1.00

2020年、イクメンカが最も高いイクメン県は「佐賀県」で、総合得点は205点と、唯一の200点を超えました。次いで2位「熊本県」192点、3位「福岡県」191点と九州勢がイクメン県に急上昇。4位「福井県」177点、5位「長野県」176点となりました。



## イクメン県1位にランクイン 子育てし大県さが

佐賀県が日本一のイクメン県になったこと、本当に嬉しく思います。

今、佐賀県では、結婚、出産、子育てのあらゆるステージで支援を行い「佐賀で子育てしたい」と思ってもらえる環境をつくるプロジェクト「子育てし大県さが」に取り組んでいます。

男性の育児参画もその一つ。男性の育児参加率がとても低いことに衝撃を受け、妻が妊娠期にある夫婦をメインターゲットに、家事や育児を夫婦で担うという意識を高める取り組み等を進めてきました。

私自身、妻が第三子出産で入院した際、育休を取得しました。4歳の長男と3歳の長女の世話に専念した期間は、想定外の出来事の連続で大変でしたが、とても幸せな時間でした。子育ては色々な楽しさを見つけられる貴重な体験です。「家事・育児はこうするもんだ」という「もんだ症候群」から解放され、「楽しさ」や「幸せ」を感じてほしいです。

今回の調査は、コロナ禍で妻の不満が高まっていると言われる中で行われ、そこで、「妻が評価する夫のイクメン度」が1位に輝いたことは本当に素晴らしいことだと思います。

また、特に20～30代で「夫はイクメン」と思う方が多いことも、若い世代を中心に「夫婦で家事・育児をする」という意識が浸透してきていると嬉しく感じました。

これからも、男女がお互いを支え合いながら家庭生活を送ることができる「子育てし大県」を目指していきます。

佐賀さいこう！

 **佐賀県**  
SAGA PREFECTURAL GOVERNMENT



よしのり  
佐賀県 山口祥義知事

# 都道府県別イクメン力一覽

都道府県	指標①: 妻の評価				指標②: 育児取得経験		指標③: 家事・育児時間		指標④: 家事・育児参加による幸福感		総合スコア	
	①-1 夫が行っている家事・育児の数	①-2 夫はイクメンだと思うか	ウエイト平均	順位	平均日数	順位	平均時間	順位	ウエイト平均	順位	総合点	ランキング
1 北海道	6.3	19	0.31	3	2.2	33	15.5	10	0.94	17	158	10位
2 青森県	5.6	37	-0.20	40	2.4	28	12.4	32	0.98	12	91	35位
3 岩手県	6.1	27	0.03	22	3.4	20	14.9	14	0.70	42	115	27位
4 宮城県	5.8	33	-0.05	30	6.3	4	12.6	29	0.88	25	119	23位
5 秋田県	6.0	29	-0.23	42	2.1	35	16.2	5	0.97	13	116	26位
6 山形県	6.4	15	0.09	15	1.5	43	16.4	3	0.96	15	149	12位
7 福島県	6.2	26	-0.12	35	7.6	3	14.3	16	0.60	47	113	29位
8 茨城県	5.8	32	-0.08	33	1.1	45	13.1	24	0.92	23	83	39位
9 栃木県	6.8	7	0.29	4	2.7	26	13.6	21	0.78	34	148	13位
10 群馬県	5.2	45	-0.14	36	1.5	42	9.5	47	0.73	40	30	47位
11 埼玉県	5.7	35	0.04	21	2.8	25	10.5	45	0.76	37	77	42位
12 千葉県	6.2	23	0.19	8	5.6	11	12.3	34	0.65	46	118	24位
13 東京都	5.6	39	-0.26	44	9.4	1	11.9	38	0.79	33	85	38位
14 神奈川県	6.8	6	0.00	26	3.7	19	12.5	31	0.88	26	132	17位
15 新潟県	6.7	11	0.18	9	4.2	18	15.8	7	0.77	35	160	7位
16 富山県	6.9	4	0.15	10	7.7	2	11.8	39	0.68	44	141	14位
17 石川県	5.5	41	-0.06	31	4.6	15	12.9	25	1.03	7	121	21位
18 福井県	7.1	2	0.10	14	2.5	27	15.9	6	0.97	14	177	4位
19 山梨県	6.0	30	-0.04	29	3.2	21	14.1	18	0.81	30	112	30位
20 長野県	6.5	14	0.13	13	6.2	5	15.1	13	0.93	19	176	5位
21 岐阜県	5.5	42	-0.16	38	5.8	9	11.0	44	0.93	21	86	37位
22 静岡県	5.5	43	-0.26	45	6.0	6	12.3	33	0.80	31	82	40位
23 愛知県	5.6	40	0.03	23	4.2	17	11.5	42	0.77	36	82	40位
24 三重県	6.4	17	-0.25	43	4.6	14	12.9	27	0.99	9	130	18位
25 滋賀県	6.2	24	0.05	18	1.6	37	12.5	30	0.74	39	92	33位
26 京都府	6.7	10	0.15	11	6.0	7	14.6	15	0.68	45	152	11位
27 大阪府	5.1	46	-0.09	34	2.4	30	12.3	35	0.88	27	68	44位
28 兵庫県	6.3	22	-0.04	28	0.3	47	13.4	22	0.83	29	92	33位
29 奈良県	5.0	47	-0.17	39	1.9	36	9.6	46	0.95	16	56	46位
30 和歌山県	6.4	16	0.04	20	0.8	46	11.7	40	0.87	28	90	36位
31 鳥取県	6.8	8	0.09	16	3.1	23	16.6	1	0.80	32	160	7位
32 島根県	7.4	1	0.02	24	1.6	39	11.9	37	0.91	24	115	27位
33 岡山県	5.9	31	-0.07	32	4.9	12	12.7	28	0.68	43	94	32位
34 広島県	6.2	25	-0.01	27	3.1	22	15.1	12	0.93	20	134	16位
35 山口県	5.6	36	-0.31	47	2.3	32	11.6	41	0.93	18	66	45位
36 徳島県	6.5	13	0.01	25	4.4	16	12.2	36	0.75	38	112	30位
37 香川県	5.4	44	-0.29	46	2.3	31	11.2	43	1.06	3	73	43位
38 愛媛県	6.7	12	0.25	6	1.5	41	14.2	17	0.71	41	123	20位
39 高知県	6.3	21	-0.21	41	2.1	34	16.4	4	1.25	1	139	15位
40 福岡県	6.9	3	0.13	12	3.0	24	16.5	2	1.00	8	191	3位
41 佐賀県	6.9	5	0.33	1	5.6	10	15.6	8	0.98	11	205	1位
42 長崎県	6.0	28	-0.15	37	4.7	13	13.3	23	0.93	22	117	25位
43 熊本県	6.8	9	0.33	2	5.8	8	13.6	19	0.98	10	192	2位
44 大分県	5.8	34	0.09	17	1.3	44	13.6	20	1.05	4	121	21位
45 宮崎県	6.3	20	0.27	5	1.5	40	15.3	11	1.08	2	162	6位
46 鹿児島県	5.6	38	0.22	7	1.6	38	12.9	26	1.05	5	126	19位
47 沖縄県	6.4	18	0.05	19	2.4	29	15.6	9	1.05	6	159	9位
全国平均	6.0		-0.01		4.1		12.9		0.85			

\*ウエイト平均とは：選択肢ごとに、回答の重みづけを行った集計方法を表しています。(あてはまる+2p、ややあてはまる+1p等)

## 2. 指標別5項目イクメン力の都道府県ランキング

### 指標 1-1 夫の家事・育児実践数TOP3は「島根県」「福井県」「福岡県」

イクメン力を構成する4つの指標別に見てみます。まず、食事作りからゴミ出し、子どもの看病など29項目をあげ、妻に夫が普段行っている家事・育児を選んでもらった結果、夫の家事・育児の実践数が多いのは、「島根県」(7.39個)、「福井県」(7.09個)、「福岡県」(6.91個)の順でした。

[ 図 2 ] 妻が評価する、夫の普段の家事・育児実践数

対象は女性 (n=5050)

順位	実践数(個)	順位	実践数(個)	順位	実践数(個)	順位	実践数(個)
1位	島根県 7.39	13位	徳島県 6.54	25位	広島県 6.16	37位	青森県 5.58
2位	福井県 7.09	14位	長野県 6.47	26位	福島県 6.15	38位	鹿児島県 5.56
3位	福岡県 6.91	15位	山形県 6.43	27位	岩手県 6.07	39位	東京都 5.55
4位	富山県 6.91	16位	和歌山県 6.43	28位	長崎県 6.03	40位	愛知県 5.55
5位	佐賀県 6.89	17位	三重県 6.40	29位	秋田県 6.01	41位	石川県 5.53
6位	神奈川県 6.80	18位	沖縄県 6.39	30位	山梨県 5.97	42位	岐阜県 5.45
7位	栃木県 6.76	19位	北海道 6.34	31位	岡山県 5.85	43位	静岡県 5.45
8位	鳥取県 6.76	20位	宮崎県 6.34	32位	茨城県 5.81	44位	香川県 5.38
9位	熊本県 6.76	21位	高知県 6.33	33位	宮城県 5.79	45位	群馬県 5.18
10位	京都府 6.70	22位	兵庫県 6.25	34位	大分県 5.78	46位	大阪府 5.10
11位	新潟県 6.66	23位	千葉県 6.22	35位	埼玉県 5.70	47位	奈良県 5.02
12位	愛媛県 6.65	24位	滋賀県 6.22	36位	山口県 5.64		全国平均 6.00

\*小数点3位以下で差が生じています。

[ 参考値① ]

#### 18時台までに帰宅する夫TOP10

対象は女性 (n=5050)

順位		%
1位	秋田県	57.9
2位	高知県	54.1
3位	宮崎県	51.8
4位	富山県	49.5
5位	青森県	48.7
6位	徳島県	48.1
7位	大分県	48.0
8位	鹿児島県	47.7
9位	山口県	46.9
10位	島根県	46.6
	全国平均	30.8

[ 参考値② ]

#### 夫が普段行う家事・育児TOP10

対象は女性 (n=5050)

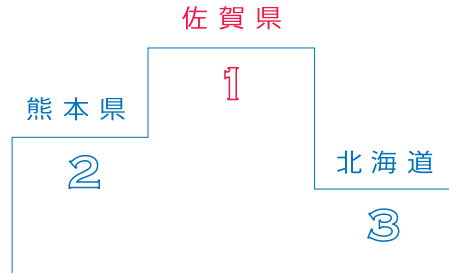
順位		%
1位	ゴミ出し	59.2
2位	子どもと遊ぶ(家の中)	50.5
3位	子どもの入浴	50.1
4位	子どもと遊ぶ(外遊び)	46.4
5位	食事後の片付け・洗い物	32.6
6位	子どものおむつ交換、トイレ付き添い	30.9
7位	子どもの歯磨き	29.1
8位	食料品・生活用品の買い物	26.9
9位	水回りの掃除(トイレ・お風呂・キッチンなど)	26.6
10位	子どもの寝かしつけ、起こす	25.7

指標 1-2 妻が評価するイクメン夫TOP3は「佐賀県」「熊本県」「北海道」

妻に夫がイクメンと思うか、「とても思う」「やや思う」「あまり思わない」「まったく思わない」の4段階で聞き、それぞれ+2点、+1点、-1点、-2点で点数化しました。その結果、妻が認めるイクメン夫は、1位「佐賀県」(0.33)、2位「熊本県」(0.33)\*で、「北海道」が0.31で3位でした。

\*小数点3位以下で差が生じています。

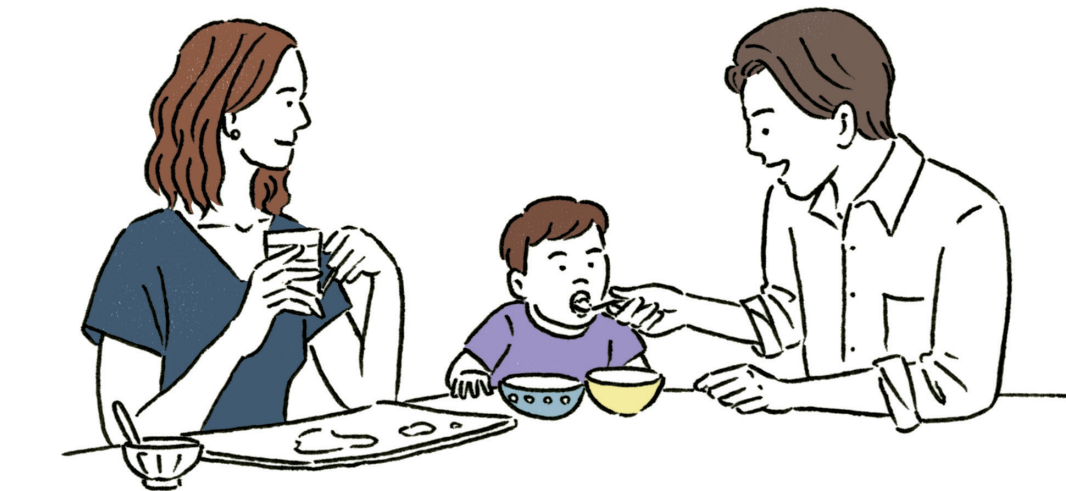
妻が評価するイクメン夫



[図3] 妻が評価する、夫のイクメン度

対象は女性 (n=5050)

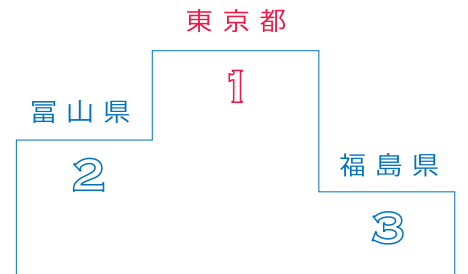
順位	イクメン度	順位	イクメン度	順位	イクメン度	順位	イクメン度	
1位	佐賀県	0.33	13位	長野県	0.13	25位	徳島県	0.01
2位	熊本県	0.33	14位	福井県	0.10	26位	神奈川県	0.00
3位	北海道	0.31	15位	山形県	0.09	27位	広島県	-0.01
4位	栃木県	0.29	16位	鳥取県	0.09	28位	兵庫県	-0.04
5位	宮崎県	0.27	17位	大分県	0.09	29位	山梨県	-0.04
6位	愛媛県	0.25	18位	滋賀県	0.05	30位	宮城県	-0.05
7位	鹿児島県	0.22	19位	沖縄県	0.05	31位	石川県	-0.06
8位	千葉県	0.19	20位	和歌山県	0.04	32位	岡山県	-0.07
9位	新潟県	0.18	21位	埼玉県	0.04	33位	茨城県	-0.08
10位	富山県	0.15	22位	岩手県	0.03	34位	大阪府	-0.09
11位	京都府	0.15	23位	愛知県	0.03	35位	福島県	-0.12
12位	福岡県	0.13	24位	島根県	0.02	36位	群馬県	-0.14
							全国平均	-0.01



指標 2 育児休業取得日数TOP3「東京都」「富山県」「福島県」全国平均取得日数は4.10日。2019年の約1.7倍に!

夫が取得した育休取得日数を聞くと、「東京都」9.42日、「富山県」7.68日、「福島県」7.61日となりました。全国平均取得日数は4.10日となり、2019年の2.36日に対して約1.7倍となりました。取得率は12.8%と、2019年の9.6%に比べて大幅アップ。取得した育休に対する満足度を聞くと、81.8%が「満足した」と答えており、昨年(67.5%)より14ポイントも高くなっています。

育休取得日数



[図4] 夫の育児休業取得日数

対象は全体 (n=9400)

順位	取得日数	順位	取得日数	順位	取得日数	順位	取得日数	
1位	東京都	9.42	13位	長崎県	4.73	25位	埼玉県	2.78
2位	富山県	7.68	14位	三重県	4.65	26位	栃木県	2.66
3位	福島県	7.61	15位	石川県	4.59	27位	福井県	2.49
4位	宮城県	6.30	16位	徳島県	4.45	28位	青森県	2.42
5位	長野県	6.17	17位	愛知県	4.25	29位	沖縄県	2.38
6位	静岡県	6.03	18位	新潟県	4.24	30位	大阪府	2.36
7位	京都府	5.99	19位	神奈川県	3.72	31位	香川県	2.31
8位	熊本県	5.81	20位	岩手県	3.43	32位	山口県	2.30
9位	岐阜県	5.77	21位	山梨県	3.17	33位	北海道	2.23
10位	佐賀県	5.64	22位	広島県	3.12	34位	高知県	2.11
11位	千葉県	5.57	23位	鳥取県	3.10	35位	秋田県	2.07
12位	岡山県	4.89	24位	福岡県	2.95	36位	奈良県	1.89
							全国平均	4.10

\*小数点3位以下で差が生じています。

[参考値③] 夫の育児休業取得率

対象は全体 (n=9400)

順位	育休取得率(%)	順位	育休取得率(%)		
1位	佐賀県	18.7	9位	石川県	14.5
2位	千葉県	18.0	10位	愛知県	14.1
3位	鳥取県	16.4	11位	岡山県	13.8
4位	宮城県	16.3	12位	三重県	13.8
5位	京都府	15.6	13位	宮崎県	13.6
6位	高知県	15.0	14位	大阪府	13.6
7位	埼玉県	14.7	15位	香川県	13.4
8位	北海道	14.6		全国平均	12.8

\*小数点3位以下で差が生じています。

**指標 3** 夫の家事・育児時間が多い  
TOP3は「鳥取県」「福岡県」「山形県」

夫が普段、家事や育児をどのくらいの時間しているか、仕事のある勤務日5日と休日2日とで聞き、1週間の家事・育児時間を算出しました。その結果、夫の1週間の家事・育児時間が長いのは「鳥取県」16.59時間、「福岡県」16.54時間、「山形県」16.44時間の順でした。

[図5] 妻が答えた、夫の1週間の家事・育児時間  
対象は女性 (n=5050)

順位		家事・育児時間/週	順位		家事・育児時間/週
1位	鳥取県	16.59	25位	石川県	12.92
2位	福岡県	16.54	26位	鹿児島県	12.90
3位	山形県	16.44	27位	三重県	12.87
4位	高知県	16.41	28位	岡山県	12.71
5位	秋田県	16.24	29位	宮城県	12.58
6位	福井県	15.88	30位	滋賀県	12.50
7位	新潟県	15.84	31位	神奈川県	12.46
8位	佐賀県	15.63	32位	青森県	12.39
9位	沖縄県	15.63	33位	静岡県	12.28
10位	北海道	15.53	34位	千葉県	12.27
11位	宮崎県	15.34	35位	大阪府	12.26
12位	広島県	15.13	36位	徳島県	12.17
13位	長野県	15.10	37位	島根県	11.94
14位	岩手県	14.92	38位	東京都	11.86
15位	京都府	14.57	41位	富山県	11.76
16位	福島県	14.34	40位	和歌山県	11.68
17位	愛媛県	14.25	41位	山口県	11.58
18位	山梨県	14.13	42位	愛知県	11.48
19位	熊本県	13.62	43位	香川県	11.20
20位	大分県	13.58	44位	岐阜県	11.01
21位	栃木県	13.56	45位	埼玉県	10.55
22位	兵庫県	13.43	46位	奈良県	9.64
23位	長崎県	13.30	47位	群馬県	9.54
24位	茨城県	13.12		全国平均	12.91

**指標 4** 家事・育児に幸せを感じる夫  
TOP3は「高知県」「宮崎県」「香川県」

夫に家事や育児を行うことに幸せを感じるか、「幸せを感じている」「やや幸せを感じている」「あまり幸せは感じていない」「幸せは感じていない」の4段階で答えてもらい、それぞれ+2点、+1点、-1点、-2点で点数化しました。その結果、家事・育児に幸せを感じる夫は、「高知県」(1.25)、「宮崎県」(1.08)、「香川県」(1.06)の順となりました。

[図6] 家事・育児参加で幸せを感じる夫  
対象は男性 (n=4350)

順位		幸福度	順位		幸福度
1位	高知県	1.25	25位	宮城県	0.88
2位	宮崎県	1.08	26位	神奈川県	0.88
3位	香川県	1.06	27位	大阪府	0.88
4位	大分県	1.05	28位	和歌山県	0.87
5位	鹿児島県	1.05	29位	兵庫県	0.83
6位	沖縄県	1.05	30位	山梨県	0.81
7位	石川県	1.03	31位	静岡県	0.80
8位	福岡県	1.00	32位	鳥取県	0.80
9位	三重県	0.99	33位	東京都	0.79
10位	熊本県	0.98	34位	栃木県	0.78
11位	佐賀県	0.98	35位	新潟県	0.77
12位	青森県	0.98	36位	愛知県	0.77
13位	秋田県	0.97	37位	埼玉県	0.76
14位	福井県	0.97	38位	徳島県	0.75
15位	山形県	0.96	39位	滋賀県	0.74
16位	奈良県	0.95	40位	群馬県	0.73
17位	北海道	0.94	41位	愛媛県	0.71
18位	山口県	0.93	42位	岩手県	0.70
19位	長野県	0.93	43位	岡山県	0.68
20位	広島県	0.93	44位	富山県	0.68
21位	岐阜県	0.93	45位	京都府	0.68
22位	長崎県	0.93	46位	千葉県	0.65
23位	茨城県	0.92	47位	福島県	0.60
24位	島根県	0.91		全国平均	0.85

\*小数点3位以下で差が生じています。

### 3. 育休取得の実態

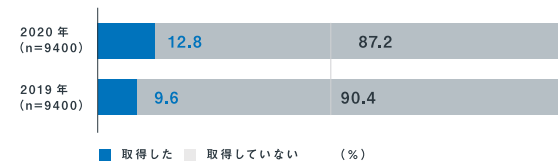
男性の育休取得率は9.6%→12.8%

取得日数「1カ月以上」13.1%→18.1%と大幅アップ

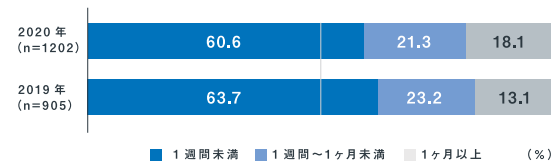
男性には自身の育休取得経験、女性には夫の育休の取得経験を聞くと、男性の育休取得率は 昨年9.6%から12.8%へと増加傾向を示しています。

育休を取得した男性1,202人(男性本人621人+女性の夫581人)が取得した日数は「1週間未満」(60.6%)が最も多いものの、約2割が「1カ月以上」(18.1%)取得しており、昨年(13.1%)より増えています。

[図7] 男性の育休取得率



[図8] 男性の育休取得日数

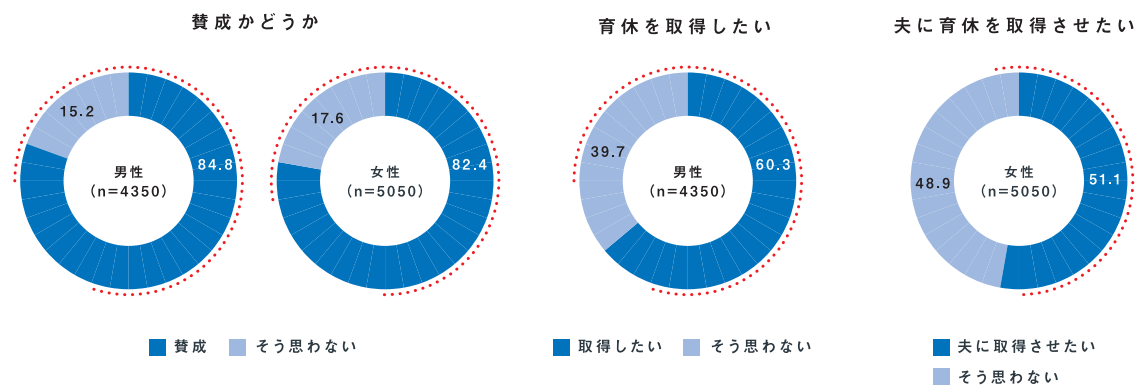


男性の育休制度に8割が賛成!

しかし、取得することは昨年と変わらず"簡単ではない"

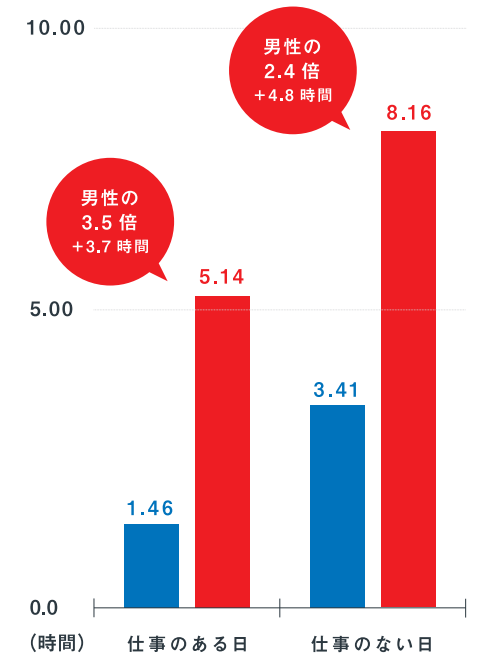
男性の育休制度について聞くと、男女ともに8割以上(男性84.8%、女性82.4%)が「賛成」しています。しかし、実際の育休取得となると、育休を「取得したい」と答えた男性は60.3%、「夫に育休を取得させたい」と答えた女性は51.1%と賛成スコアより少なくなっています。育休を取りたくても取れない状況が今年も続いているようです。

[図9] 男性の育休制度に対する意見



働く女性の家事・育児時間は、平日5時間/休日8時間  
働く男性の家事・育児時間は、平日1.5時間/休日3.4時間

[図12] 1日の家事・育児時間



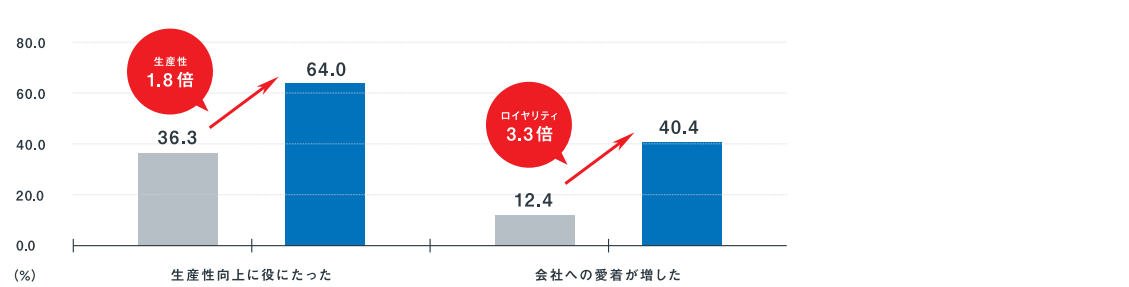
1日の家事・育児時間を聞いてみました。働いている男女6,882人に仕事がある平日の家事・育児時間を聞いた結果、男性は平均1.46時間、女性は5.14時間となり、女性は男性より3.7時間も長く3.5倍にも上ります。仕事がない休日は、男性は3.41時間と平日より1.95時間長くなっていますが、女性は8.16時間とさらに長くなり、男性より4.8時間も長く時間を割いています。令和の時代になっても、家事・育児は、まだまだ女性の負担が大きいです。

## 育休取得の実態

### 育休を取ることで生産性が向上したり 会社への愛着につながったりすることも

育休を取得した男性 621人のうち、家事・育児に幸せを感じる男性の64.0%は「生産性が向上」、40.4%が「会社への愛着が増した」と答えました。どちらも家事・育児に幸せを感じない男性より30ポイント近くスコアが高いことから、家事・育児を感じる幸せが、仕事面にも良い影響をもたらしていると言えます。

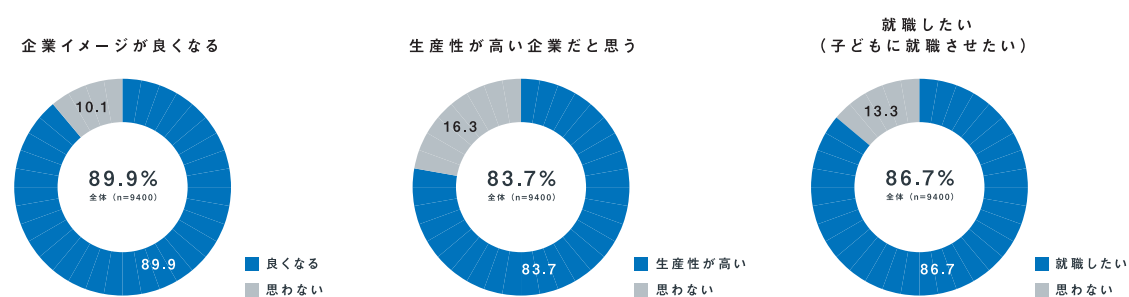
【図10】家事・育児幸福度の仕事への影響



### 男性の育休制度は 社会的にも評価の高い企業として認められて"四方よし"

全員に、男性社員の育休取得が進んでいる企業についてどのようなイメージを持つかを聞くと、「企業イメージが良くなる」(89.9%)、「生産性が高い企業だと思う」(83.7%)、「就職したい(もしくは自分の子どもに就職してほしいと思う)」(86.7%)と、すべての項目で好評価でした。育休制度の充実が社員の会社に対するロイヤリティを醸成しますが、それだけでなく、社会からの評価を高める効果もあるようです。SDGsのジェンダーの平等という視点からも、男性の育休取得は積極的に推進すべき課題のひとつです。男性の育休取得は、本人や家族にとってだけでなく、職場や企業にとってもメリットがあり、社会にも貢献できる、「四方よし」な制度と言えます。

【図11】男性の育休取得が進んでいる企業のイメージ



## 「イクメン白書」から 見えてきた 今どきのイクメン像

ジャーナリスト 治部れんげ

今回の調査結果で興味深かったのは、佐賀、熊本、福岡という九州三県がトップ3位を独占したことです。これまで「九州男児は保守的」とされてきたイメージを覆す画期的な内容だと思いました。もしかしたら「九州男児」に対するイメージ自体が特定地域と性役割の強さを結び付ける「ジェンダーバイアス」なのかもしれません。

私は数年前、熊本県庁の企画で地元大学生向けにワークライフ・バランスに関する講演をしました。そこに参加した大学生100数十名の7~8割が「将来、家庭を持った後も共働きを続けたい」と言ったのです。大学生は男女共に、子どもを持ったり家を買ったりしたら、男性ひとりで家計を支えるのは難しい、という現実的な見通しを持っていました。そのため、共働き、家事・育児分担を当然と考えていたのです。

若い世代の意識は大きく変化しています。昨年の本調査を関西の大学で紹介したところ男子学生達から「そんなことができると思わなかった」「僕も育休を取りたい」という感想が寄せられました。また、都内の女子大で積水ハウスの男性育休について話したところ「うれしくて泣きそうになった」という声がありました。男女共に育休を取れる会社、社会は次世代の大きな希望になるのです。

これからいかに男性育休を日本で広めていくか。本調査の「イクメンカ」を5項目に分けて各項目3位まで順位を算出した部分が参考になります。14の異なる都道府県がランキング入りしていることから、要素分解すると得意なことが各県で違うことが分かるからです。

この結果を踏まえ、各県が得意分野を掘り下げて調査・情報共有することを提案したいです。例えば東京都は、男性の育休日数を増やす方法、佐賀・熊本県は妻からの夫に対する評価が上がるポイント、鳥取県は夫の家事・育児時間を増やす方法、高知県は夫が家事・育児で幸せを

感じる背景などについて強みがあるようです。特に「1カ月以上」の男性育休をいかに増やせるか、今後のカギになるでしょう。本調査によれば男性育休の不満第1位が「期間が短すぎる」です。当面は「1カ月」を目標に取得を推進することが、社会を変える現実的な方法になるでしょう。

OECDとEU加盟国を対象としたユニセフの調査「Are the world's richest countries family friendly? : Policy in the OECD and EU」(Chzhenほか, 2019)によれば、日本の法律は、男性に対して最も手厚い育休制度を保障しています。これは、男性が使える有給の育児休業が長いことを意味します。つまり、日本には充実した制度があり、課題は「職場の雰囲気」や「人員不足」ということです。

本調査から、男性育休に賛成する人が8割もいるのに、実際の取得に賛成する人は男性6割、女性5割というギャップがあることが分かります。制度と実情の乖離(かいり)という課題を持つ日本では、企業や雇用主が男性に育休取得を後押しすることが効果的です。また、女性も「家事・育児は自分の仕事」という思い込みから自由になり、配偶者に任せようようにしたいものです。



治部れんげ

1997年一橋大学法学部卒、日経BP社にて経済誌記者。2006~07年、ミシガン大学フルブライト客員研究員。2014年よりフリージャーナリスト。2018年、一橋大学経営学修士課程修了。メディア・経営・教育とジェンダーやダイバーシティについて執筆。現在、昭和女子大学現代ビジネス研究所研究員、東京大学大学院情報学環客員研究員、日本政府主催の国際女性会議 WAW! 国内アドバイザー、東京都男女平等参画審議会委員(第5期)、豊島区男女共同参画推進会議会長、朝日新聞論壇委員、公益財団法人ジョイセフ理事、UN Women 日本事務所による広告のバイアスをなくす「アンステレオタイプアライアンス日本支部」アドバイザー。著書に「炎上しない企業情報発信：ジェンダーはビジネスの新教養である」(日本経済新聞出版社)、「稼ぐ妻 育てる夫：夫婦の戦略的役割交換」(勁草書房)等。2児の母。

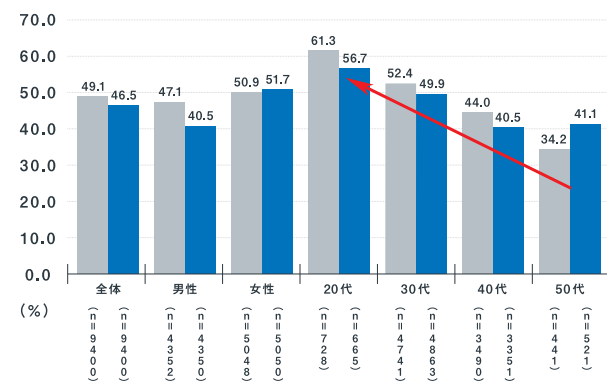


# 4. イクメン意識の実態

男性の4割がイクメンを自認

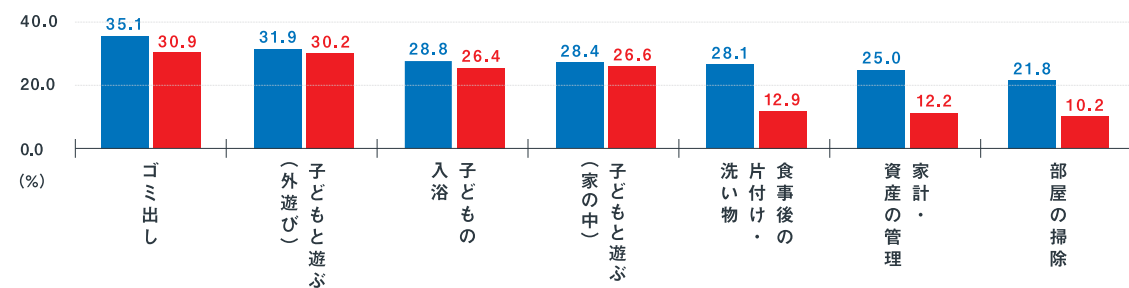
20代のイクメン意識は50代の約1.4倍  
家事・育児参加意識への世代間ギャップ

[図13] イクメン意識



イクメン意識を探ると、男性の40.5% (昨年47.1%) が「自分はイクメンだと思う」、女性の51.7% (昨年50.9%) が「夫はイクメンだと思う」と答えました。年代別に見ると、若い世代の方がイクメン意識が高めで、50代では41.1%、20代では56.7%と約1.4倍の結果に。若い世代の方がイクメン意識が高いが、2019年は50代34.2%、20代61.3%と約2倍の開きがありましたので、世代間の意識差は縮まってきているのかもしれない。

[図14] 夫が得意な家事



[図15] 夫が得意な家事 夫と妻のギャップ

	夫 (%)	妻 (%)	ギャップ (%)
1位	28.1	12.9	15.2
2位	25.0	12.2	12.7
3位	21.8	10.2	11.6
4位	18.8	8.3	10.5
5位	17.7	7.7	10.0
6位	21.2	14.0	7.3
7位	12.5	6.9	5.6
8位	10.8	6.5	4.4

## あなたも共感できる？ 妻が夫に期待する 家事・育児

休みの日だけでも  
子どもの生活リズムに合わせて  
起きて、遊んで育児してほしいです。  
テレビと携帯見てないで  
子どもを見てほしい。  
(北海道 31歳)

率先して  
気づいてやって欲しい。  
こちらから言うのではなく、  
洗濯物が多いから手伝うとか、  
些細な手伝いがとても助かるので、  
アンテナを高く持って欲しい。  
(佐賀県 28歳)

皿洗いやお風呂の  
掃除など手伝ってくれる  
のですが、細かい部分どうしても  
汚れたままになってしまうことが  
多いので、細かい部分も  
綺麗にしてほしい。  
(栃木県 37歳)

名前のない家事を  
もう少し手伝ってほしい。  
例えばゴミだけでなく  
ゴミ集めも、掃除機をかけるだけでなく  
整理整頓もしてほしいと思う。  
(石川県 38歳)

二人ともが休みの日、  
少しでも家事分担してほしい。  
脱いだ服を脱ぎっぱなしにするのを  
やめて欲しい  
(広島県 35歳)

私が家事をしている間は  
子どもたちを見ていてほしいし、  
私が子どもたちの相手をして  
いる時は片付けなど簡単な  
家事を言われなくてもすすんで  
してほしい。  
(石川県 41歳)

外遊びなど、  
身体を使う遊びの相手を  
やってくれれば、その間に家事に  
集中できるので嬉しい。  
ゴミ出しは重労働なので、  
頼みたい。  
(宮城県 40歳)

脱ぎっぱなし  
出しっ放しをやめてほしい。  
自分の用意は自分で  
やってほしい。  
(京都府 30歳)

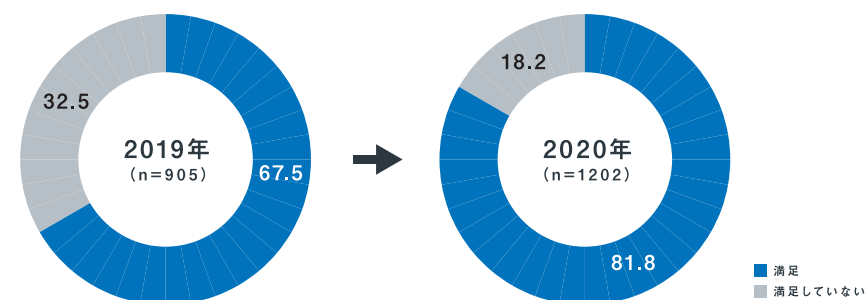
休みの日も  
寝てばかりで自分優先なので、  
もっと子どもを第一に考えてほしい。  
家事も私が頼む前に自分から  
手伝ってほしい。  
(鹿児島県 33歳)

# 5. 育休を取得した夫・妻の声

## 育休を取得した夫の満足度は8割! 昨年よりも14ポイントアップ

取得した育休に対する満足度を聞くと、81.8%が「満足した」と答えており、昨年(67.5%)より14ポイントも高くなっています。

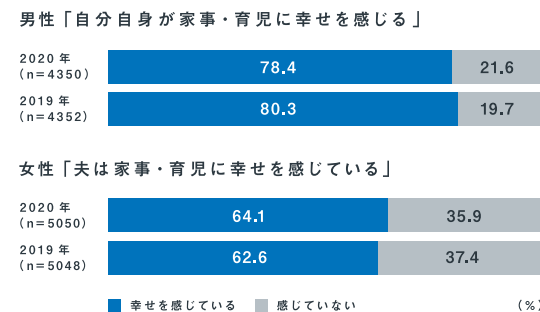
[図16] 男性の育休満足度



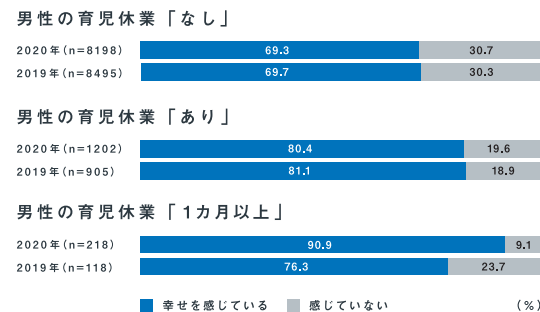
## 家事・育児に幸せを感じる夫 本人の育休期間が長いほど、 男性の家事・育児幸福度は高くなる

全員に、男性は家事や育児を行うことに幸せを感じるかと聞くと、男性は78.4%が「幸せを感じる」と答え、女性は64.1%が「夫は家事・育児に幸せを感じている」と答え、昨年(80.3%)とほぼ同じです[図17]。育休取得の有無で見ると、取得した夫の幸福度は80.4%と取得していない夫(69.3%)より11ポイントも高く、育休は幸福をもたらすといえそうです。1カ月以上取得した夫の幸福度は90.9%といっそう高く、昨年(76.3%)より15ポイントも高くなっています。

[図17-1] 夫の家事・育児幸福度



[図17-2] 男性の家事・育児幸福度



### 家事・育児に幸せを感じる理由

- 子どもの成長をじかに感じられるから(北海道 男性 34歳)
- 家族全員で協力していて、一体感を感じるから(長崎県 男性 38歳)
- 家族が揃っている時間が楽しそう(兵庫県 女性 41歳)
- すごく助かるし、子どもが喜んでいるから(広島県 女性 27歳)

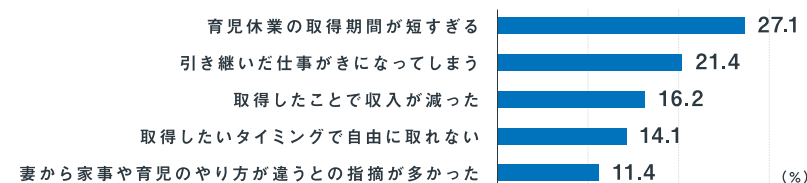
### 家事・育児に幸せを感じられない理由

- 思うように時間がとれないから(鳥取県 男性 42歳)
- 仕事で疲れているので、わずらわしい(愛媛県 男性 38歳)
- めんどくさそうに見える(東京都 女性 44歳)
- 仕事で疲れているから(秋田県 女性 31歳)

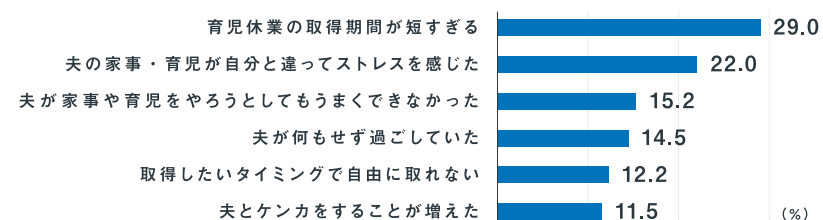
## 「取得期間」が短すぎることは 育休取得者の不満に

育休を取得した男性621人に取得したものの満足できなかったことを聞くと、「取得期間が短すぎる」(27.1%)が最も多くなっています。夫が育休を取得した女性581人に夫の育休期間中に感じた不満を聞くと、同じく「取得期間が短すぎる」(29.0%)がトップですが、「夫の家事・育児が自分と違ってストレスを感じた」(22.0%)、「夫が家事や育児をやろうとしてもうまくできなかった」(15.2%)、「夫とケンカをすることが増えた」(11.5%)など、夫の対応に不満を感じるケースも多くなっています。また、妻の7人に1人(14.5%)は、育休中にも関わらず「夫が何もせず過ごしていた」ことに腹を立てています。

[図16-1] 取得した本人が、育休中に感じた不満



[図16-2] 妻が夫の育休中に感じた不満



育休取得中の育児や家事に対する感想

育休を取得した夫に「おもしろさ」と「大変さ」、夫が育休を取得した妻に「よかったこと」と「残念だったこと」についてそれぞれ率直な意見を聞いてみました。育児を体験したからこそ喜びと大変さは、子どもと一緒に自分の成長も味わえるようです。

育休取得した男性の意見  
おもしろかったこと

- 日々成長する姿が見られる(秋田県 31歳)
- 常に一緒にいることで、考えや行動が分かるようになった(鹿児島県 39歳)
- 普段見れない表情をたくさん見れた(佐賀県 30歳)
- 昨日食べられなかったものが、急に食べられるようになったこと(長野県 37歳)
- 平日の子どもの様子が分かる(茨城県 53歳)
- 抱っこしていると落ち着いてすぐ寝てしまうこと(新潟県 28歳)

育休取得した男性の意見  
大変だったこと

- ▲ ママじゃないと子どもが満足しない(富山県 29歳)
- ▲ プライベートがない(岐阜県 32歳)
- ▲ 子どもの寝かしつけ。寝てもすぐ起きる(三重県 39歳)
- ▲ 普段やっていなかった料理をすること(香川県 45歳)
- ▲ 子どもたちの食事の献立を考えること(福岡県 53歳)
- ▲ 泣き止まない(熊本県 32歳)

夫が育休取得した女性の意見  
よかったこと

- 2人で大変さや喜びを分かち合えたこと(長崎県 33歳)
- 父親である自覚ができた(熊本県 42歳)
- 出産に立ち会ってもらえた(京都府 27歳)
- 夜泣きやオムツ換えなど夫も子育ての大変さを知れたこと(青森県 44歳)
- いてくれるだけで心強かった(福島県 39歳)
- 自分も初めての育児なので一緒に試行錯誤できたこと(千葉県 40歳)

夫が育休取得した女性の意見  
残念だったこと

- ▲ 会社の方々から冷たい目が向けられていること(秋田県 24歳)
- ▲ 収入が減った(茨城県 40歳)
- ▲ 食事の用意など、家事の負担がかえって増えたこと(東京都 32歳)
- ▲ 夫の自由時間が多い。育休ではない、ただの夫の休み(兵庫県 35歳)
- ▲ 期間が短いこと(高知県 36歳)
- ▲ 育児休業を取得しても、育児自体あまりしなかった(沖縄県 28歳)

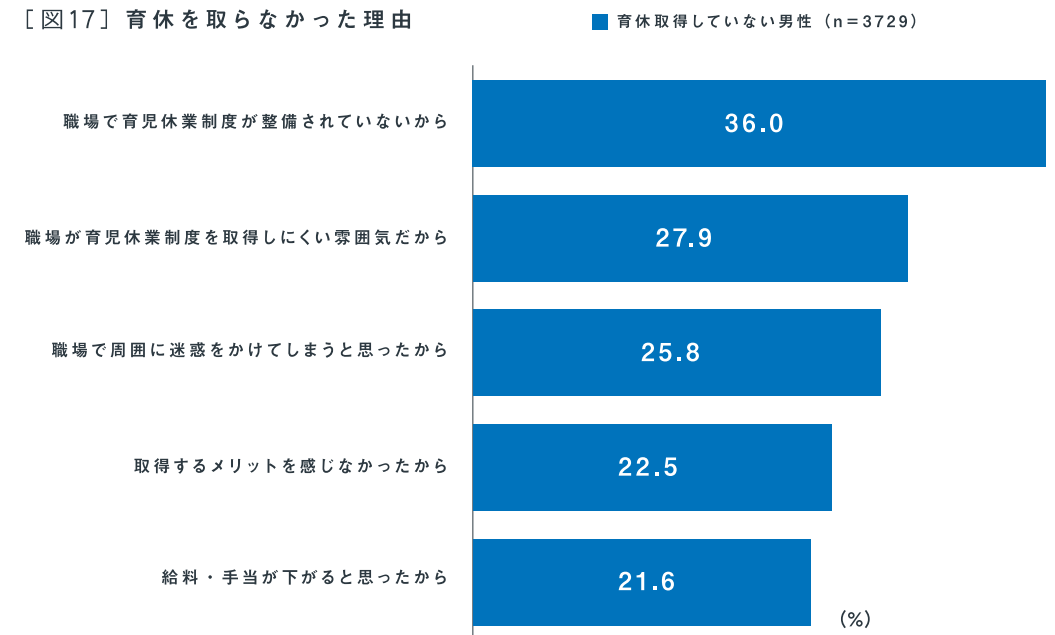
6. 育休を取得しなかった夫・妻の声

取らない理由は「制度が未整備」

「取りにくい雰囲気」など職場環境が大きな要因

育休を取得しなかった男性 3,729 人にその理由を聞きました。すると昨年と同様「職場で育児休業制度が整備されていない」(36.0%)が最も多く、「職場が育児休業制度を取得しにくい雰囲気」(27.9%)、「職場で周囲に迷惑をかけてしまうと思った」(25.8%)など、職場環境が育休取得を阻む大きな要因となっています。男性の育休取得は、組織としての取り組みが不可欠といえそうです。

[図17] 育休を取らなかった理由

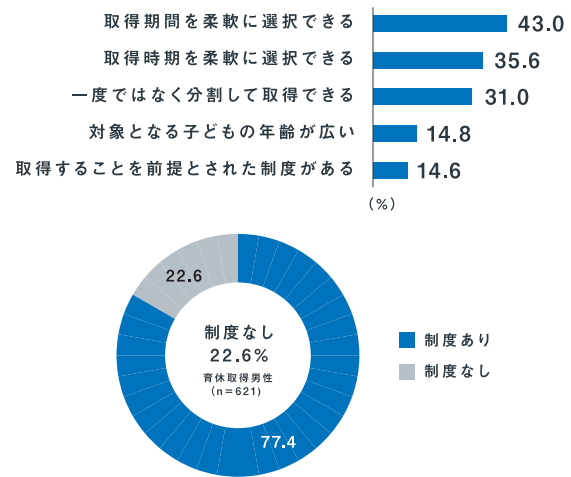


育休を取得した男性の会社でも、「制度がない」2割、6割は上長からのアドバイスも「ない」

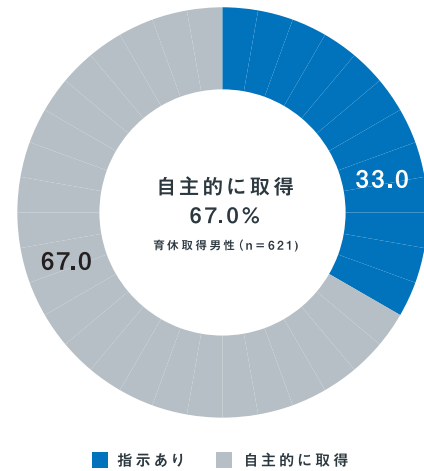
育休を取得した男性 621 人に自身の会社の育休制度を聞いてみました。すると、「取得期間」(43.0%)や「取得時期」(35.6%)を柔軟に選択できる、「一度でなく分割して取得できる」(31.0%)などがありますが、「いずれの制度もない」と答えた男性が 22.6%いました。また、職場や上長から育休取得を促すアドバイスがあったかと聞くと、3人に2人はアドバイスもなく、「自主的に取得」(67.0%)しています。

## 育休を取得しなかった夫・妻の声

[図18] 育休制度の内容（複数回答）



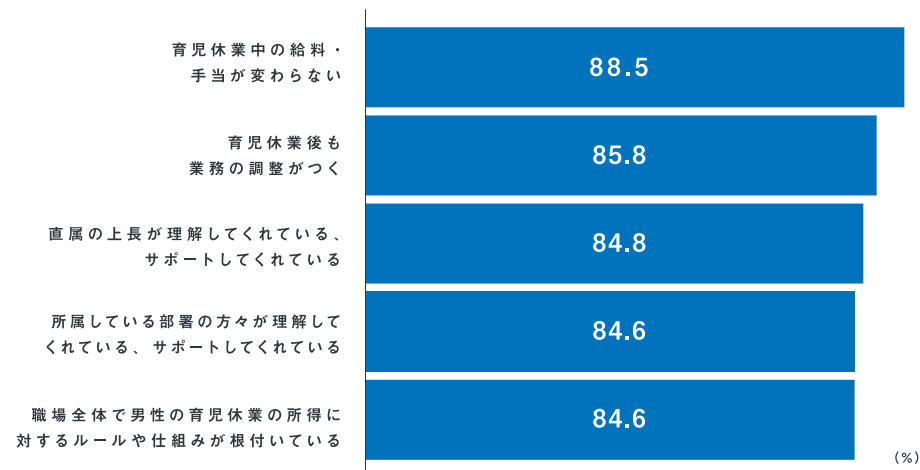
[図19] 職場からのアドバイスの有無



## 給与面や復帰後の調整、周囲のサポートが充実すれば、男性の育休はもっと取得しやすくなる？

全員に職場がどのようになったら男性の育児休業取得が推進されると思うか聞いてみました。すると、「育児休業中の給料・手当が変わらない」(88.5%)、「育児休業後も業務の調整がつく」(85.8%)、「直属の上長が理解してくれている、サポートしてくれている」(84.8%)などが上位にあげられました。

[図20] 男性の育休取得推進のために効果的と思うこと 全体 (n=9400)

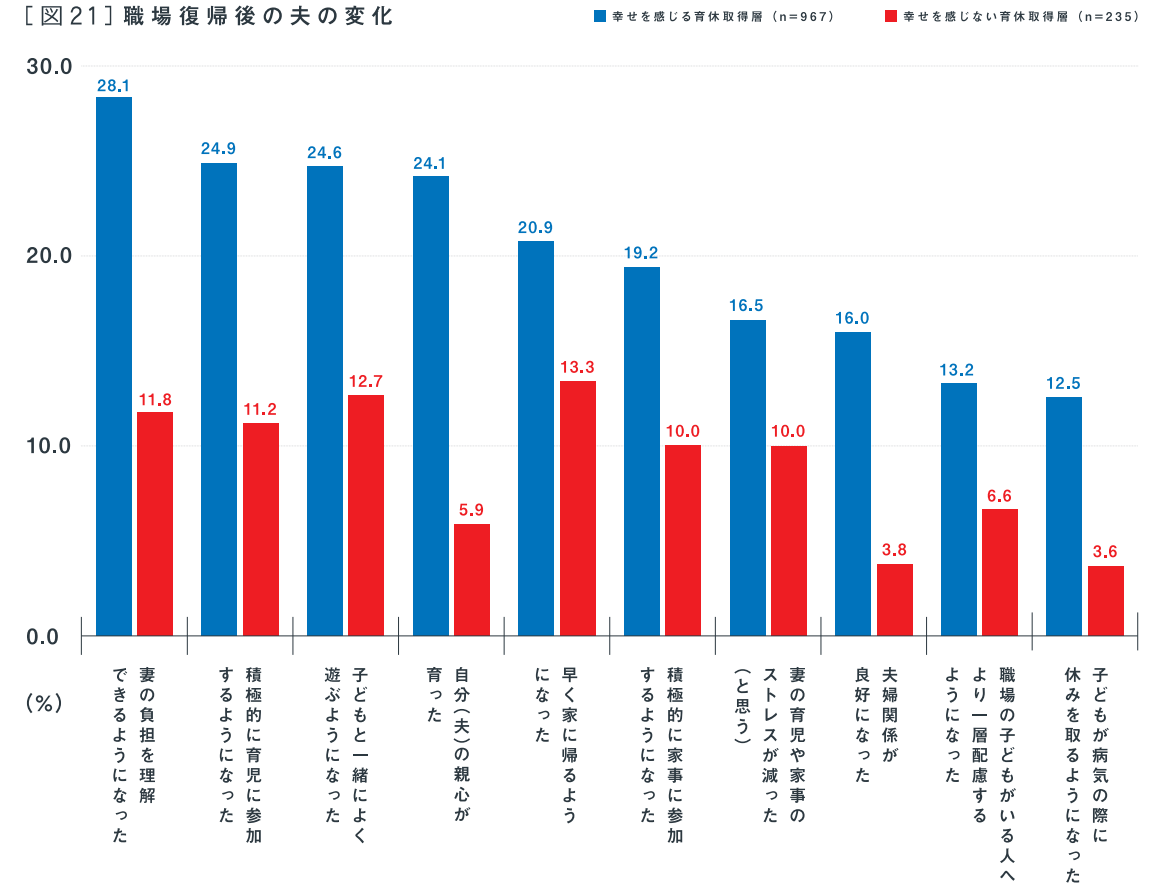


## 7.イクメンの家事・育児と幸福度

### 家事・育児に幸せを感じる夫は「妻の負担を理解」「積極的に育児に参加」などイクメン傾向が加速

育休取得後に職場に復帰した夫、もしくは夫が育休取得後に職場に復帰した妻1,202人に聞きました。家事・育児に幸せを感じる夫は、「妻の負担を理解できるようになった」(28.1%)、「積極的に育児に参加するようになった」(24.9%)、「子どもと一緒に遊ぶようになった」(24.6%)、「自分(夫)の親心が育った」(24.1%)と、幸せを感じない夫に比べ、すべてのスコアが高くなっています。家事・育児に幸せを感じられるとイクメンぶりも磨かれ、さらに幸せを感じられるという好循環が形成されるようです。育休経験がイクメン力を高めていることがうかがえます。

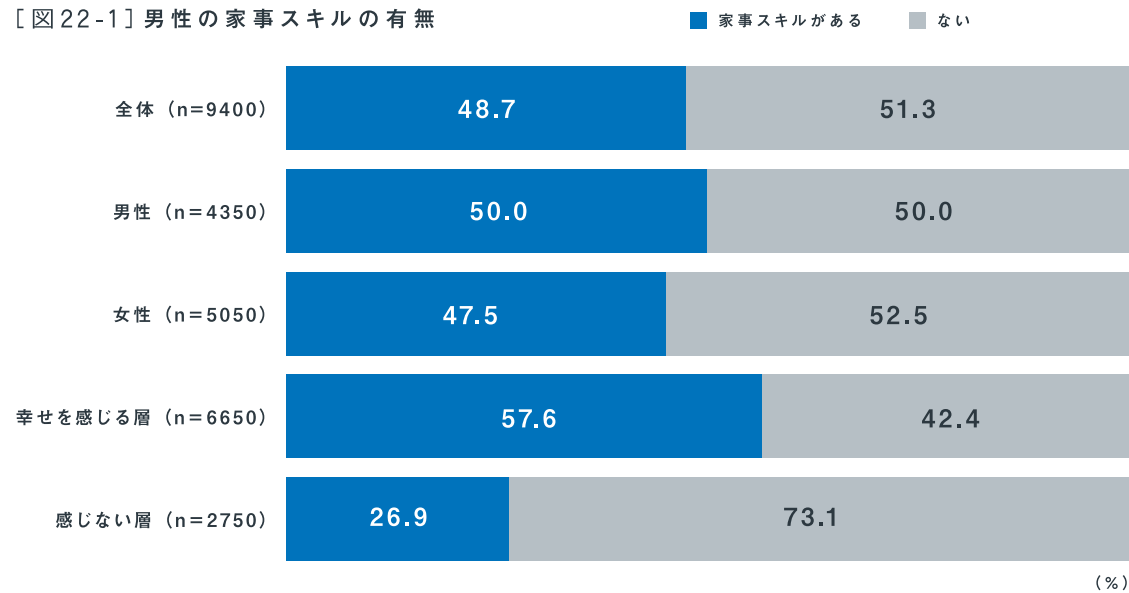
[図21] 職場復帰後の夫の変化



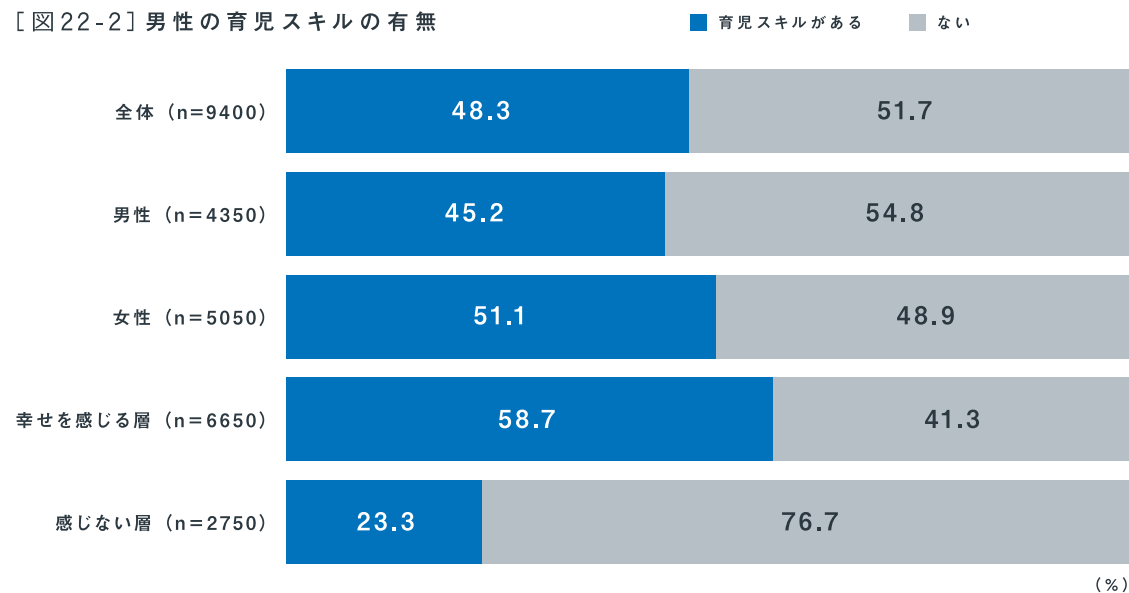
## イクメンの家事・育児と幸福度

男性には自身の、女性には夫の家事スキルの有無を聞くと、48.7%が男性は家事スキルが「ある」と答えました。家事・育児に幸せを感じる層(6,650人)は57.6%が男性の家事スキルが「ある」と答えています。幸せを感じていない層(2,750人)は26.9%に留まり30ポイントもの差があります[図15-1]。男性の育児スキルについても同様の傾向で、家事・育児に幸せを感じる層が58.7%、幸せを感じていない層が23.3%と35ポイント差となりました。

[図22-1] 男性の家事スキルの有無



[図22-2] 男性の育児スキルの有無



## 男性育休普及と幸せについて

慶應義塾大学教授 前野 隆司

幸福学・幸福経営学の研究を行なっている、慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科の前野隆司です。幸福学とは、幸せのメカニズムを探るとともに、人々を幸せにするための製品、サービス、組織づくりを行うための学問です。研究の一環として積水ハウスさんと「住めば住むほど幸せ住まい」の共同研究を推進させていただいています。

この度のイクメン白書2020を拝読しました。調査結果によると、育児・家事に幸せを感じている男性ほど家事・育児に積極的で、家事スキルが高く、家庭内だけでなく仕事面にも良好な影響が及んでいることがわかります。また、家事・育児に取り組んでいる男性は女性以上に家事・育児に幸せを感じているという興味深い結果が出ています。さらに、イクメン力全国ランキングでも、積水ハウスの社員は全国平均を上回っており、国内でも極めて高いレベルにあることが見て取れます。これらの点から、同社の取り組みの先進性に強く共感します。

私が株式会社カラダノートさんともに行った調査においても、家事を夫と妻が同じくらい行っている人が最も幸せで、夫または妻に偏っている人は幸福度が低下する傾向が見られました。このことから考えても、男性が育児休業を取得するなど、家庭生活への貢献度を高めることは、間違いなく家族の幸せに寄与するものと言えるでしょう。もちろん、幸せな社員は創造性も生産性も高いことが知られていますので、ワーク&ライフを含めたトータルな幸福度を高める効果もあるものと考えられます。以上により、幸せな活

動であるイクメン休業制度を心より応援しています。

ただし、国際的に見ると、日本の現状は遅れているとも感じます。欧米では男女平等が日本以上に進展していますので、もはやイクメン白書を出す必要がないばかりか、もしかしたらイクメンという言葉自体、男女差別的な表現だという意見も出るかもしれません。男女平等の問題に限らず、すべての人の個性が尊重され、誰もが生き生きと生きることのできる社会が実現できることを心より願っています。様々な活動を通して、「わが家」を世界一幸せな場所にするのみならず、会社を同率一位で世界一幸せな場所にするためにも、イクメン休業をはじめとした社員と社会の幸せのための取り組みを積極的に推進されている積水ハウスさんを心より応援しています。



前野隆司

1962年、山口県生まれ。1986年に東京工業大学 理工学研究科 機械工学専攻修士課程修了後、キヤノン株式会社に入社。1993年に博士(工学)学位を取得(東京工業大学)し、2008年から慶應義塾大学 システムデザイン・マネジメント(SDM)研究科教授に就任。2011年より2019年までSDM研究科委員長兼任。2017年から同大学ウェルビーイングリサーチセンター長兼任。

## 8. 積水ハウスの「イクメン休業」を取得した男性社員とその妻に聞く 積水ハウスの「イクメン休業白書 2020」

### 3歳未満の子どもがいる全男性社員を対象に、 育児休業1カ月以上の完全取得を目指す 積水ハウスの「イクメン休業」

「キッズ・ファースト企業」として子育てを応援する社会を先導する当社では、ダイバーシティ推進の取り組みを一層加速させるため、2018年9月より「男性社員1カ月以上の育児休業（イクメン休業）完全取得」を推進しています。これは、3歳未満の子どもを持つすべての男性社員が対象となり、子どもの誕生から3歳に達する日の前日までに1カ月以上の育児休業を取得するもので、最初の1カ月は有給とし、家庭の事情や業務との調整を図りやすいよう、最大で4分割での取得も可能としています。

### 「イクメン力全国ランキング」で、 積水ハウス社員はかなり高い結果に

イクメン休業を取得した男性社員とその妻を対象に同内容のアンケート調査を行いました。その結果、1位の県と比べても、積水ハウス社員のイクメンぶりが非常に際立つ結果となりました。

部門別TOP3	夫が行っている家事・育児の数	夫はイクメンだと思うか	夫の育児取得平均日数	夫が1週間に家事・育児を行っている時間	夫の家事・育児への幸福度
	積水ハウス 14.58	積水ハウス 1.02	積水ハウス 31.53*	積水ハウス 14.2	積水ハウス 1.56
1	島根県 7.4	佐賀県 0.33	東京都 9.4	鳥取県 16.6	高知県 1.25
2	福井県 7.1	熊本県 0.33	富山県 7.7	福岡県 16.5	宮崎県 1.08
3	福岡県 6.9	北海道 0.31	福島県 7.6	山形県 16.4	香川県 1.06
全国平均	6.0	-0.01	4.1	12.9	0.85

\*積水ハウスの取得日数は、アンケートに回答した180人の平均。土日祝日を含む。

### 積水ハウス男性社員の 家事・育児に対する幸福度は98.3%! ほぼ全員が、家事・育児に幸せを感じている

イクメン休業を取得した男性社員に家事・育児に幸せを感じるかと聞きました。すると98.3%とほぼ全員が「幸せを感じる」と答えました。本調査では男性の78.4%が幸せを感じると答えていたことから、全国のパパの平均値よりも幸せを実感できています。

### 妻も認める夫のイクメンぶり 83.5%と高評価

イクメン休業を取得した男性社員の妻に、夫はイクメンだと思うかと聞きました。すると、妻の83.5%が「夫はイクメンだと思う」と答えました。本調査では女性の51.7%が夫のイクメンぶりを認めています。積水ハウスの男性社員のイクメンぶりがかなりの高評価であることがわかります。

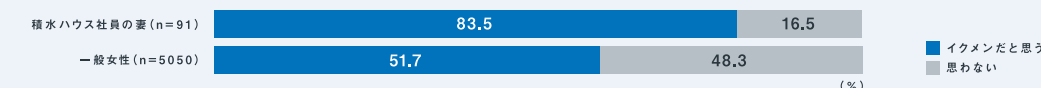
### 社員も妻も9割以上が高評価の「イクメン休業」制度 男性の育休取得があたり前の社会を目指す 積水ハウスグループ

会社の「イクメン休業」制度に対する評価を聞きました。すると、社員である男性の97.4%、妻の98.2%が「イクメン休業」制度が「良かった」と答えています。「イクメン休業」制度は、社員の幸せにつながっているようです。

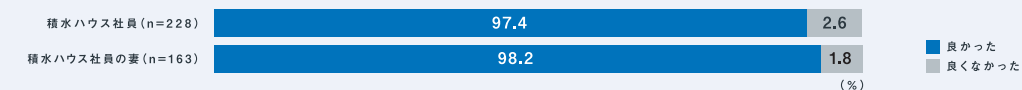
[図24] 家事・育児幸福度



[図25] 夫のイクメンぶり



[図26] イクメン休業制度に対する評価



### 積水ハウス社員のイクメン調査 調査概要

[図24] [図25]

- 実施時期 2020年6月22日(月)～7月13日(月)
- 調査手法 インターネット調査
- 調査対象 積水ハウス社員で2019年9月～2020年5月末時点において「イクメン休業」1カ月以上の取得を完了している男性社員とその妻(男性社員180人、その妻91人)

[図26] 「イクメン休業」取得後アンケートの結果。

- アンケート回答時期 2019年9月～2020年6月にイクメン休業システム登録分
- 回答者 積水ハウスの男性社員とその妻(男性社員228人、その妻163人)

※構成比(%)は小数点第2位以下を四捨五入しているため、合計しても100%にならない場合があります。



## 積水ハウス株式会社

本社 / 〒531-0076 大阪市北区大淀中1丁目1番88号 梅田スカイビル  
www.sekisuihouse.co.jp

